

道徳科学習指導案

平成29年6月10日（土）学習指導Ⅳ（1の1教室）1年1組 指導者

I 主 題 大切に使うってどういうことかな

II 考 察

1 主題観

(1) 育まれる主な資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力・人間性等

みんなが使う物を大切に使う態度

①知識・技能

みんなが使う物を大切に使うことの意義
についての理解

②思考力・判断力・表現力等

みんなが使う物を大切に使うことについて
の自己の考え

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 主として集団や社会との関わりに関すること

12 規則の尊重〔第1学年及び第2学年〕

約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。

(3) 主題や教材の価値

本主題は「規則の尊重」の内容項目のうち、みんなが使う物を大切に使うことの意義について考える学習である。その価値は以下のとおりである。

みんなが使う物を大切に使うことは大切である。なぜなら、みんなが使う物を大切に使うと、みんなが使う物が壊れたりなくなったりせず、次に使う人が安心して気持ちよく使えるからである。しかし、人間は、みんなが使う物を大切に使うことの意義を十分理解していないため、自己中心的な使い方をしてしまうこともある。だからこそ、みんなが使う物を大切に使うことの意義を理解した上で、みんなが使う物を大切に使う態度を養うことが大切である。

子どもたちは、多くの場合、学校の本を元の場所にきちんと戻したり、トイレのサンダルをきれいに揃えたりするなど、みんなが使う物を大切に使うことができている。しかし、時には、遊ぶ時間がなくなるからなどの自己中心的な考えから、みんなが使う本やサンダルを乱雑に使ってしまうこともある。このような子どもたちが、みんなが使う物を大切に使うことの意義について考えることは、みんなが安心して気持ちよく使えるように、みんなが使う物を大切に使う態度を養うことにつながる。

そこで、教材「黄色いベンチ」（わたしたちの道徳1・2年）を使用する。教材の内容及び価値は、以下のとおりである。

雨が上がったあとの公園で、友達と紙飛行機を飛ばして遊んでいた主人公たちは、高いところから飛ばそうとして、どろのついた靴のままベンチの上に乗る。自分たちの靴がどろどろであることに気付かず、夢中で紙飛行機を飛ばした2人だったが、その後、ベンチに座った女の子が、スカートがどろどろに汚れて困っている様子を見てはっとする、という内容である。

これらの主人公たちの姿から、子どもたちは、自分の行為に夢中になるあまり、みんなが使うものを大切に使うことができない人間の弱さに気付くことができる。そして、みんなが使う物を大切に使うことの意義について考えることができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、1年「いろいろなきまり」での、学校や社会生活の中で、その場に応じてきまりを守ることの大切さについて考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちはこれまでに、日常生活において、自分が使う物を大切に使いながら生活してきた。その中で明らかになった子どもたちの実態及び本主題を進めるにあたっての指導方針は、以下のとおりである。

自分が使う物を大切に使うことで、自分が気持ちよく使うことができることを理解してきている。このような子どもたちが、みんなが使う物を大切に使うことで、みんなが安心して気持ちよく使えるようになることを理解できるように、次に使う人が困らないためのみんなが使う物の使い方を問う学習課題を設定する。

② 自分が使う物を大切に使うことについて、多面的・多角的に考える機会は少ない。このような子どもたちが、みんなが使う物を大切に使うことについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えられるように、自分たちが考えた、次に使う人が困らないためのみんなが使う物の使い方をした際の主人公と女の子の気持ちを話し合う活動を設定する。

③ 自分が使う物を大切に使う態度を養ってきている。このような子どもたちが、みんなが使う物を大切に使う態度を養えるように、学習したことを基に今までの自らの生活を振り返り、これからしていきたいことを伝え合う活動を設定する。

Ⅲ 指導計画 ※Ⅲについては、別紙参照

Ⅳ 本時の学習

- ねらい 次に使う人が困らないためのみんなが使う物の使い方について話し合うことを通して、みんなが使う物を大切に使うことの意義に気づき、実践しようとする態度を養う。
- 準備 場面絵 役割演技の道具
- 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 自らのみんなが使う物の使い方を発表し合い、教材から、学習課題「2人はベンチをどのように使うとよかったのだろう」をつかむ。	○自らのみんなが使う物の使い方を想起することができるように、学校の本やトイレのサンダルの写真を提示し、今までの自らの使い方を問いかける。

- ・借りた本がなくならないように、きちんと元の場所に返しているよ。
 - ・主人公たちは、泥のついた靴でベンチに乗っているよ。
 - ・自分は主人公と違って、みんなが使う物を大切に使っているよ。主人公みたいに汚してしまったら、他の人が困ってしまうな。
- 2 学習課題の解決に向けて話し合う。
- ・汚さないようにベンチを使えばよかったのではないかな。だって、汚れていなければ女の子は困らなかったからだよ。
 - ・自分が考えたベンチの使い方をしたら、女の子はどう思うのかな。
 - ・紙飛行機を飛ばすときに、「靴を脱いでベンチに乗る」は、女の子はスカートが汚れず、よい気持ちで座れると思うな。でも、友達「ベンチに乗らない」のも、女の子がよい気持ちで座れるからよいと思うよ。
 - ・確かに、遊びに夢中になると忘れてしまって、大切に出来ないかもしれないな。男の子も、高い所から紙飛行機を飛ばすことに夢中だったから、ベンチを汚してしまっていることに気付かなかったのだよ。
 - ・みんなが使う物は、汚したり壊したりしないように使うことが大切だね。だって、みんなが気持ちよく使えるからだよ。
- 3 今までの自らの生活を振り返り、これからしていきたいことを発表し合う。
- ・みんなが使う物には、メディアルームの本やトイレのサンダル、クラスのボールなどがあるね。遊びに夢中になって、ボールをきちんと片付けなかったことがあるよ。みんなが使う物を大切にしていなかったな。
 - ・これからは、みんなが使う物を汚したり壊したりしないように気を付けて大切にしたいな。そうすれば、みんなが気持ちよく使えるからだよ。そして、使う人みんなが大切に使うと、自分が使うときも気持ちよく使えると思うな。みんなも自分も気持ちよく使えるっていいね。

- 教材「黄色いベンチ」の内容を把握できるように、教材を範読し、主人公たちのベンチの使い方を問いかける。
- みんなが使うベンチを大切に使うことについての問題意識をもてるように、自分と主人公たちとの、みんなが使う物の使い方の共通点や相違点と、その理由を問いかける。
- 学習課題に対する考えとその根拠を学級全体で共有できるように、全体で発表するよう促す。
- みんなが使う物を大切に使うことについて、多面的・多角的に考えられるように、「主人公」「女の子」の視点で、子どもの考えを整理して板書する。
- 自分たちが考えた様々な使い方をした場合の、次に使う人の気持ちに気付けるように、自分たちが考えたベンチの使い方についての役割演技をし、そのときの主人公と女の子の気持ちを話し合うよう促す。
- みんなが使う物を大切に使うことができない人間の弱さに気付けるように、遊びに夢中になった場合の、みんなが使う物を大切に使うことの可否を問いかける。
- みんなが使う物を大切に使うことの意義についての理解を深められるように、みんなが使う物を使うときに大切なことを問いかける。
- ねらいとする価値についての今までの自らの生活を振り返られるように、身近にあるみんなが使う物を問いかける。
- よりよい自己の生き方についての思いや願いを明確にできるように、学習を振り返り、これからしていきたいことを発表するよう促す。

評価項目

みんなが使う物を大切に使うことについて、多面的・多角的に考えたことや、自分との関わりで考えたことを発言している。
 <発言>

- 今後の生活への意欲をもてるように、生活への見通しを具体的にもてた子どもを賞賛する。

指導計画（全1時間）

目標	次に使う人が安心して気持ちよく使えるように、みんなが使う物を大切に使うことが大切であることを理解し、実践しようとする。
教材	黄色いベンチ（わたしたちの道徳1・2年）
主題構成	女の子のように困る人がいなくなるためのベンチの使い方をした際の、主人公たちと女の子の気持ちに目を向けて考え、みんなが気持ちよく使えるように、みんなが使う物を大切に使うことが大切であることに気付けるようにする。
事前	○メディアルームの本やトイレのサンダルを大切に使っている子どもを賞賛する。
本時	○今までのみんなが使う物の使い方について発表し合い、教材から学習課題「2人はベンチをどのように使うとよかったのだろう」をつかむ。 ○女の子のように困る人がいなくなるためのベンチの使い方についての役割演技を行い、その場合の主人公たちと女の子の気持ちを考え、学習課題の解決に向けて話し合う。 ○今までの自らの生活を振り返り、これからしていきたいことを発表し合う。
事後	○ボールなどの遊具をきれいに使って遊ぶことができている子どもを賞賛する。
他の教育活動との関連	・日常生活で、メディアルームの本やトイレのサンダル、学級のボールなど、みんなが使う物を使う場面。